

直方市のDXとは

—令和2年4月、大塚市長はまだDXという言葉も一般的ではなかった時期にいち早く取り組みを進めようとしてしました。その理由は？

市長 地方の人口が減少していく大きな転換期の中ではDXの推進は

避けて通れません。コロナ禍がある意味で追い風になり、どう市民と非接触型でサービスを展開していくか模索

する中、国もコロナ禍後を見据えてDXに舵を切った。この機会にこれまでの遅れを取り戻し、移住定住を含めた将来の市民にも支持してもらえるような自治体に生まれ変わっていくことが重要だと思い、いち早くDXを柱に掲げました。



DX(デジタルトランスフォーメーション)とは…
データやデジタル技術を活用し、社会や暮らし全体がより便利になるよう変革していく取り組みのこと。

森戸 これまでは東京に一極集中型でしたが、経済的な部分でも大きくルールが変わってきました。地域で一番大きな組織は自治体なので、自治体がどんどん変わっていくと地域全体が変わるのではないかと思いい、直方市のデジタル化の支援をすることにしました。

直方市のDX構想

市長 今はコロナ禍でも市民のみなさんが手続き等で役所に来ており、我々が市民の貴重な時間を浪費している状況です。これを削減できると、市民にとっては別のことに時間を有効に活用することができるようになる。一方、行政の内部事務でも業務の効率が良いこと、より市民サービスの質の向上に繋がる政策を打てるようになる。このことが、今自治体に求められているDXの一つの大きな部分だと思います。そして、

将来的には我々が持ち得ているデータを使ってエビデンスに基づいた政策を進めていけるようになるんだろうと思っています。

森戸 直方市のDX構想の中で「3本の矢」と表現をしています。ペーパーレス化とか電子化といった業務の効率化が最初の部分で、そこで生み出した時間をどう使っていくかというところに繋がっていく。手続きに関しても来庁でもオンラインでもできるといふ選択肢を広げていくことは、他の自治体の参考になります。その辺りの構想は社会がデジタル化される中で考えられたのですが、
市長 スマホを使いこなせる人たちが圧倒的に多くなり、ワクチン接予約のオンライン申請について、当初は時期尚早かといった議論もあったが、思い切ってそこにシフトしていくことによって、結果的にネット予約につなげることが出来たと実感できた。社会全体も条件が整って

直方市長 おおつかのぶひろ 大塚進弘



直方市DX推進本部C-10補佐官

もりとゆういち
森戸裕一

いくつか。どうしても自分ではオンラインは苦手だと言われる方にはサポートする仕組みも提供しながら取り組んでいます。選択肢を組み合わせることによって、トータルの効率化が進むだろうと思っています。

DXの可能性

もう少し絞り込んだ情報技術を使った形での対応というのがこれからやるべきことだと思います。それは災害だけではなく個別の状況に応じたメニューを提示することで、最適なサービスを提供していくことが可能な時代に入りつつあるのかと思っています。

森戸 「2030年SDGs」や「2050年カーボンニュートラル」などの目標がありますが、直方市はどういったDX戦略を進めていこうと考えていますか。

市長 災害でいうと今は全体に避難開始情報を発信していますが、浸水地域にある人たち、その中の要支援の人たち等、ピンポイントでしっかりと情報をプッシュすることに

より、状況によって避難行動を促すような、状況や人に応じた情報発信のあり方で人命を守ることに繋がっていく。行政がやっている十把一絡げのやり方から

市長 そういう形になっていくと市民のみなさん方にとっては安心して直方で生活ができる。行政も市民との信頼関係をしっかりと培っていくれば、いろいろな政策を展開していく上でも、信頼関係に基づいた施策が打てるし、より政策の効果が上がることにつながるかなと思います。

業務執行ができると思っています。

森戸 選択肢を増やしていけば、一人で暮らしている人のサポートも手厚くできるし、窓口に行く選択もできる。また、それ以外の方々は効率的にオンラインで予約できる。その割合が年々オンラインの方々が増えていくのではないかとという仮説でいくと、窓口業務などの労力が徐々に減ってくるという形ですね。

市長 我々も時代環境が変わることとをしっかりと踏まえたうえで、行政からのアプローチをどう選択して

きたというのが我々が進める一つの動機でもあります。

森戸 コロナで移動が制限されたことで手続きのオンライン化を試してみても、みなさんそこそこ使えてるなといったことに気づけたということでしょうか。

市長 そうですね。ただし一人暮らしの高齢者も含めて俗にいうデジタルデバイスと言われる情報格差に置かれている人たちをどう救うか、そこにも目配りをしながらそういう人たちへの配慮もすれば、効果的な